2025/4/1 更新

缶詰巻締模擬試験問題（初級用）No.1

つぎの文を読んで、その内容が正しいものには○印、間違っているものには×印を、（　　）内につけてください。

1）（　　）低酸性食品とは、pHが4.6を超え、かつ水分活性が0.94を超える食品をいう。

2）（　　）缶詰製造の基本は、脱気、密封、殺菌工程である。

3）（　　）缶詰の中身が変敗した場合、必ず缶が膨張する。

4）（　　）加熱殺菌は、食品を長期間保管するために重要な工程である。

5）（　　）空気を多く含んだ缶詰は腐敗しやすい。

6）（　　）缶詰を保存するときはできるだけ高い温度で保管するとよい。

7）（　　）2ピース缶とは缶胴と缶底が一体化したものに、缶蓋が二重巻締されたものである。

8）（　　）缶詰容器の缶胴と缶蓋は必ず同じ金属を使用している。

9）（　　）缶材の厚さすべての金属缶で同じである。

10）（　　）缶詰の賞味期限は3年と食品衛生法で定められている。

11）（　　）缶詰食品だけでなく、容器にも食品衛生法の規格基準がある。

12）（　　）日本では、有害な食品を販売することは法律で禁止されている。

13）（　　）取扱注意等の指示のある配管や電気配線にむやみに触らない。

14）（　　）手や指をけがしている人は、食品会社に勤務してはならない。

15）（　　）工場の床は水たまりが生じないように、適度な勾配をつけておくとよい。

16）（　　）二重巻締法はアメリカで発明された。

17）（　　）巻締の3要素とは、巻締ロール(Roll)、チャック(Chuck)、リフター(Lifter)をいう。

18）（　　）缶詰食品は二重巻締によって密封されている。

19）（　　）不良巻締を発見した場合は巻締機を止め、直ちに原因を調べる必要がある。

20）（　　）セミトロシーマーは半自動巻締機である。

21）（　　）巻締機は構造が簡単なので、あまり整備しなくても巻締不良になることはない。

22）（　　）測定工具の中には二重巻締測定専用のものがある。

23）（　　）実缶缶高（CaH）の測定にはノギスかハイトゲージを使用する。

24）（　　）測定部位Ｉはサイドシームの反対側の位置である。

25）（　　）TCとは第1巻締厚さのことである。

26）（　　）巻締測定記録は長期間保管しなければならないので、作業終了後にきれいに清書しておくとよい。

27）（　　）巻締の外部測定は、できるだけ回数をおおくする方がよい。

28）（　　）巻締機を正確に調整すれば不良品が発生することはない。

29）（　　）巻締部を強く傷つけると漏れることがある。

30）（　　）缶胴が変形した缶で食品を製造してはいけない。

2025/4/1 更新

缶詰巻締模擬試験問題（初級用）No.2

つぎの文を読んで、その内容が正しいものには○印、間違っているものには×印を、（　　）内につけてください。

1）（　　）缶詰に使用する原料の鮮度は品質に影響しない。

2）（　　）缶詰製造の基本は、脱気、密封、殺菌工程である。

3）（　　）低酸性食品の加熱殺菌は、加圧式殺菌機（Retort）で行う。

4）（　　）加熱殺菌は、食品を長期間保管するために重要な工程である。

5）（　　）缶詰の冷却に用いる水は汚れた水を使ってはいけない。

6）（　　）食品に食塩を加えると水分活性(Aw)が低くなる。

7）（　　）2 ピース缶とは缶胴と缶底が一体化したものに、缶蓋が二重巻締されたものである。

8）（　　）3 ピース缶の缶胴の接合部は溶接されているものが一番多い。

9）（　　）缶詰食品用金属缶は、ブリキかアルミニウムで作られているものが多い。

10）（　　）缶詰食品だけでなく、容器にも食品衛生法の規格基準がある。

11）（　　）ペットフードの缶詰には食品衛生法が適用されない。

12）（　　）食品衛生法では高品質の製品を製造することが義務付けられている。

13）（　　）巻締機械の動力を使用する際は、周りに人がいないかを確認し合図してから行う。

14）（　　）工場に入る際には、指輪、イヤリングなどの装飾品はすべて取り外さなければならない。

15）（　　）選別工程の照明は明るくしておく必要があるので、照明にカバーなどをつけてはいけない。

16）（　　）巻締の 3要素とは、巻締ロール(Roll)、チャック(Chuck)、リフター(Lifter)をいう。

17）（　　）巻締寸法の標準値は缶詰製造会社が独自で決めなければならない。

18）（　　）不良巻締を発見した場合は巻締機を止め、直ちに原因を調べる必要がある。

19）（　　）シーミングチャックハイト(SCH)とはチャックとリフターの間の距離をいう。

20）（　　）同一の巻締ロールで、すべての缶詰を巻締することができる。

21）（　　）ひとつのマイクロメーターでどの缶も測定することができる。

22）（　　）実缶缶高（CaH）の測定にはノギスかハイトゲージを使用する。

23）（　　）第 1 巻締ロールの寄りが強すぎると巻締幅(W)が小さくなる。

24）（　　）巻締の外部検査をする場合、視覚検査が合格であれば巻締値の測定はしなくても良い。

25）（　　）缶材の厚さによって、適正巻締厚さ（T）が決まる。

26）（　　）巻締の内部検査は 4時間に 1回以上行わなければならない。

27）（　　）実缶缶高はすべての缶で同じである。

28）（　　）巻締の外部測定は、できるだけ回数をおおくする方がよい。

29）（　　）カットオーバーとは巻締内周の肩の部分がひれ状に鋭く張り出し、同部が亀裂しているものをいう。

30）（　　）巻締部を強く傷つけると漏れることがある。